

経済建設委員会会議録

平成24年7月31日

9時57分 開会
11時00分 閉会

網走市議会

午前9時57分 開会

○佐々木委員長

ただいまより経済建設委員会を開会いたします。

本日の委員会の進行ですが、観光部より天都山展望台及びオホーツク流水館の建てかえについての説明とその他の議件を用意しております。

では、まず初めに、1件目、天都山展望台及びオホーツク流水館の建てかえについて、田口観光課長より説明をお願いいたします。

○田口観光課長

天都山展望台及びオホーツク流水館の建てかえについて、現在、建替基本構想の策定に着手したところでございますが、その基本的な考え方と方向性について御説明申し上げます。

資料をごらん願います。

まず初めに、1、これまでの経過の確認でございますが、資料に記載しているとおり、平成21年に天都山展望台建替基本構想調査を実施し、展望台の高さや建設位置等の検討を行ってまいりました。

また、平成22年度におきましては、市民による天都山展望台改築可能性調査検討会を設置し、今後の天都山展望台及びオホーツク流水館の建てかえの必要性や留意点等について御意見等をいただき、展望機能だけではない付加価値、流水館機能の承継、市民利用などが報告され、その結果を同年8月のまちづくり住民懇談会において、市民の皆様にご説明させていただいたところでございます。

その後、東日本大震災の影響により、観光客の入込み数、宿泊数の落ち込みがあり、回復の行方を見守ってまいりましたが、現在のところ、震災前の一昨年、平成22年度を若干上回る状況まで回復している状況となっております。

次に、2の基本構想の成果と概要のところに移りますけれども、建替基本構想の策定に着手したところでございますが、構想の中では、資料記載のとおり、現状と取り巻く環境、建てかえに当たっての課題の整理、求められる役割の明確化、基本コンセプト及び基本構成・施設規模・具体的建てかえプランや外観イメージ・展示内容の検討、そして運営方式・収支構造などの課題検討について検討することとしております。

次に、3の基本構想のポイントに移りますが、

当市の観光振興につきましては、以前から説明させていただいておりますけれども、観光客全体が減少している現在、交流人口、滞在時間、消費額をいかにふやしていくかが重要であり、そのためには観光資源の集積した天都山エリア、農業体験などが可能な大曲湖畔園地、そして道の駅やモヨロ文化等、歴史を体感できる川筋エリアを中心とした、観光資源を組み合わせた取り組みが重要と考えております。

そのような状況におきまして、天都山展望台及びオホーツク流水館につきましては、名勝天都山からのすばらしい景観と網走観光の絶対的なアイテムである流水を組み合わせた施設として、国内はもとより外国人観光客にも認知されておりまして、網走を訪問地として選択する上での大きな要素となっていることから、現在地に建設することを基本に検討してまいりたいと考えております。

次に、天都山展望台及びオホーツク流水館の位置づけですけれども、オホーツク流水館につきましては、観光施設として、事業性を重視した施設として整備・運営を図ってまいりましたが、今後はその側面を考慮しつつも、流水は他地域との差別化を図る上での重要なアイテムであるということから、流水館施設単体での事業性のみではなく、網走観光全体における公益性という観点から位置づけも検討してまいりたいと考えております。

次に、市民利用についてでございますが、これまで施設利用の対象は、主に他地域からの観光客でありましたが、建物施設だけではなく、周辺も含め市民の利用を意識したものにし、利用の拡大を図ることにより、市民にも天都山エリアのすばらしさを再認識していただくことが重要であると考えております。

次に、事業の整備手法についてですけれども、天都山展望台及びオホーツク流水館施設の整備を、周辺も含め隣接するオホーツク公園と連携し、公園整備事業を活用することができないかの検討も進めることとしております。

以上が基本的な考え方と方向性のポイントでございますが、いずれにしましても、建てかえにつきまして、施設単体で考えるのではなく、網走観光全体のビジョン、戦略などを並行して検討し、その中で天都山エリアと他のエリアや地域資源の組み合わせ、それらをアピールしていくためのプ

ロモーションなど、総合的な観光振興を意識した取り組みをしていくことが重要であると考えております。

最後に、4、今後のスケジュールについてですが、来月から開催されるまちづくりふれあい懇談会において、本日お示しした内容を市民の皆様にご説明することとしております。

また、ただいま申し上げましたように、網走観光全体を考えるシンポジウムを10月ころに開催したいと考えております。

基本構想の策定につきましては、10月末までにまとめ上げまして、12月議会におきまして皆様に報告申し上げる予定としております。

以上で説明を終了させていただきます。

○佐々木委員長

皆さんから質問等ございましたら、どうぞ。

○近藤委員

ちょっとまず、これまでの議論の流れとの整理をさせていただきたいのですけれども、今、田口課長のお話にもあったように、本来であれば平成22年に可能性調査検討会の報告が出て、そのまま基本構想へというステップだったはずなのが東日本大震災の影響もあってという御説明だったと思うのですけれども、私の個人的な受けとめとしては、1年間というのは、結果的には空白の1年になってしまったというふうに受けとめているわけです。なぜ1年見守ってしまったのかというのを改めてちょっとお聞かせ願いたいのですけれども。

本来であれば、もっとスピード感を持って、昨年度中に基本構想に進んでいただきたかったという思いがあるのですけれども、それができなかった理由、東日本大震災を一つ挙げておられましたけれども、それはなぜなのかというのを改めてお示しいただきたいなと思います。

○田口観光課長

計画は、ここにも書いてありますとおり、平成20年度につきましては基本構想調査、平成21年度につきましては市民による天都山展望台改築可能性調査を行ってきたわけですが、当初25万人程度の入館者数があったのが平成19年度にはいきなり20万人にまで落ち、その後、予想以上に入館者数が減少してきた、18万人になり、15万人になりという、そういう状況があった上に、さらに東日本大震災で大きく落ちたという、このような入

館者数の状況から、なかなか、収支バランスとかの検討をしている中でおくれたしまったというのが実状という形になります。

○近藤委員

いずれにしても、歴史的にどんどん減り続けていた現状があるわけですから、早く手を打たなければいけないという状況は、去年一年でも、今でもそれは変わっていないわけですので、そこはスピード感を持って進めていく必要があるだろうというふうに私は思っています。

これから基本構想をつくりながら、まちづくりふれあい懇談会できょうお話しした内容を示していくということなのですが、今、説明を聞いていて感じた感覚としては、多分、市民の皆さんは、これを示されてもなかなか具体的なイメージがわきづらいという感じがします。

例えば、基本構想として何万人程度の集客が建てかえ後の流水館及び展望台にとって適正だと今は考えているのかという具体的な数字でありますとか、さらには基本コンセプト、建てかえプラン、来館イメージ等々これからまとめていくということなのですが、それをさらに具体的に示すことというのは、今の段階ではできないのでしょうか。

○田口観光課長

具体的な数値と収支関係につきましては、これから検討していく基本構想の中で、より具体的に検討していきたいというふうに考えております。

それから、コンセプト等につきましては、この中で少し触れておりますけれども、今までは流水館とか、展望台はもともとそうなのですが、事業性を重んじていろいろ検討してきたわけですが、これからは市民にも活用できる公益性という部分で検討していき、そうすることによって、ここでも一つの例として挙げておりますけれども、公園整備事業などの新たな事業をかかわらせて対応していくということを説明していきたいというふうに考えております。

○近藤委員

では、具体的な集客、これが適正規模、大体これぐらいを目標値にというのは、現段階では示せないということですか。

○田口観光課長

今のところ数値については示せない状況になっています。

○近藤委員

その数字が具体的に見えてこない、基本構想を練るにしてもビジネスモデルをつくっていくというのはなかなか難しいのではないのでしょうか。

○田口観光課長

いろいろな事業を活用していく中で、入り込みについても今後検討していきたいというふうに考えております。

○近藤委員

流氷館、現行の経営改善策の中で、何ぼでしたか、12万人、15万人でしたか……（田口観光課長「13万人」と呼ぶ）13万人をとりあえず目標値にというのを出していますけれども、お考えとして、それよりも上積みをするという前提で考えているというのでしょうか。

○田口観光課長

13万人というのは一昨年の数字でございますので、これがだんだん下がってきているわけですが、現在、一昨年の数値を維持するような入り込み状況も見られますので、それ以上の目標を持つことも可能かとは思っております。

○近藤委員

いずれにせよビジネスモデルをきちんとつくっていく上では何人来るのかという前提が必要だと思うので、そこは多分、きっと、ふれあい懇談会でも聞かれる可能性はあると思います。なるべく早い段階で練り上げていていただきたいというふうに思います。

それとあと、もう一つ、公園整備事業というのが今回のお話の中で出てきていますけれども、ちょっと唐突感もあるように受けとめているのですが、このタイミングで公園整備事業との連携という話が出てきた背景と、公園整備事業と連携することによるメリットがどういう点にあるのかというのを説明いただきたいと思います。

○田口観光課長

天都山の道立オホーツク公園ですけれども、今、こちらのほうを新たに整備するというところで、北海道のほうで動いている状況でございます。

いろいろ検討していたところ、オホーツク流氷館、天都山展望台というのは、このオホーツク公園のエリアに隣接している状況にございまして、うまくこれを一体として整備することによって、

北海道のいろいろな補助とかそういうものが該当する可能性があるのではないか、そういうことを検討しまして、これについてはもう少しさらに深く検討していきたいという状況でございます。

○近藤委員

多分、細かい部分の煮詰めをこれからやっていくと思うのですが、ちょっと留意していただきたいのは、事業のイニシアチブをだれがとるかということになってくると思います。当然、道の公園整備事業になって補助金がつくということは、道の意向も反映しなければならないというような状況も想定されるので、そうなった場合に、とりあえずこの建物だけつくればいいのか、そうってしまうと、ここのコンセプトに書いている、市民の皆さんにもっと来てもらうとか、そういうものが抜け落ちてしまう可能性がありますので、やっぱり事業のイニシアチブを市としてしっかりととっていくという意識を持っていただきたいというふうに思います。そこについては、副市長はどうでしょうか。

○大澤副市長

今、近藤委員がおっしゃったとおり、その件については、オホーツク公園が設置されてから20年近くなるかと思えますけれども、北海道としては、20年経過している中で、利用者のニーズが変わってきたとか、施設をまた更新しなければならないとか、いろいろな、北海道は北海道としての考証がございまして、

北海道としては、利用率を上げていきたい、それから、私どもとしても利用増をねらっていくという共通の目的があるというところでは認識が一つになっていまして、それであるならば、具体的に言えば、道立の広域公園のエリアを天都山の展望台のところまで拡大していただいて、連携をとりながら一緒に事業展開をできないかというところでの相談をしているというところなんです。

具体的には、施設はどちら側が整備するのかとか、どの部分を道がやるのか、市がやるのかというようなことは、これからの詰めになってきますので、いずれにしても、展望台と流氷館というのは複合の一体の施設ということでの整備ということでは、私どもの考え方を話しておりますので、どの辺のところまでやっていけるかということについては、これからの話になっていきますけれども、今おっしゃられたことについては十分頭

に入れていきたいというふうに思っております。

○近藤委員

最後なのですけれども、建てかえるという方向で今はずっと話が進んでいて、建てかえ後の運営主体をどういうふうに今は考えているのかというのがまた一つの課題になってくるかと思うのですけれども、ここには公益性もあると、公益施設であるという位置づけも改めて盛り込むということなのですが、建てかえ後の運営手法というのは、現段階ではどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

○田口観光課長

建てかえ後の運営主体は、現在のところ、現在の方式を継続していきたいというふうに考えております。

運営につきましては、入館料をもって運営を行っていきたいというふうに考えております。

○近藤委員

ということは、市が一定程度のかかわり合い、今はほぼ直営なのですけれども、何らかの形でかわり続けていくという意識であるということでしょうか。

○田口観光課長

基本的にはそのように考えております。

○近藤委員

それは一つの考え方としては理解できる側面もあるのですけれども、やはり、一方で財政再建もやらなければいけないということで、5年間で27億円の収支不足も可能性としてはあるというような計画がつけられていたりとかする中で、市としても、流氷館にかかわっていくには、ある意味わかるのだけれども、ある意味、そこまで金を出してかかわってもいいのですかという批判が出る可能性もあるというふうに私は思っています。

私個人としては、最終的には民間ベースでやっていくような形になることが望ましいというふうに思っているのですけれども、そのあたりは市としてはどういうふうにお考えでしょうか。

○田口観光課長

今後の具体的な運営方式につきましては、これからの基本構想の検討の中で具体的に考えていきたいというふうに考えております。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

○山田委員

ちょっとお聞きしたいのですけれども、流氷館が単体の位置づけから全体への位置づけというふうな形になりましたけれども、単体と考えれば、それが事業自体として収支がどうのこうのという問題になって、現在も赤字になってしまいます。それを全体的な位置づけに持っていくという、状況を変えていくということについては、理由というか、どういう考え方に基づいているのでしょうか。

○田口観光課長

今は、流氷館につきましては、比較的観光客を対象として運営してきた面がありますけれども、今後につきましては、市民利用も、観光も当然今までどおり継続はしますけれども、市民の活用も大きくして、そうすることによって、今回は公園整備の関係も検討しておりますけれども、そのような手法も取り入れながら全体的なものとして考えていきたいというふうに考えております。

○山田委員

当然、全体的に物事を考えることは非常に重要なのですけれども、考え方によっては、流氷館は、悪くとれば、収支はいつも改善しないから、全体の観光の中でとらえて、総体的に赤字が見えなくなればいかというような感じも何かあるようなのです。

また、今回、公益性というところがあります。この公益性というのは、収支は余り関係ないのだと。自治体が、公益であるからこの予算を使うと。逆に言えば、多少赤字になっても、それはしようがないことではないかというような考え方もあるのですけれども、そういう極端な考え方ではなく、単独のものという考え方の中で、収支の面に関しては、どのように考えているかということをやっと、教えてほしいのです。

○田口観光部次長

全体的な公益性という部分では、これまでの観光状況というのは非常にニーズが変わってきておりまして、個人型から団体型、それから周遊型から滞在型ということではあるのですが、やはりまだ周遊型が多いということもあります。その中で、網走市を訪問地の先として選択していただくというための、「網走」「流氷」という、このワーディングのつながりというのは非常に強いものでございまして、例えば旅行パンフレットを見ても、周遊型の網走の訪れるところは、ほとんど

が流氷館です。それ以外は入っていないというのが実状で、やはり周遊型は時間が短いので、ラストアイテムを選びながらいくので、そのために網走を選択されるということがありますので、まず網走を選択していただくという、そういった意味での網走観光全体における公益性というのがそれぞれあると思います。

しかしながら、かといって公益性ということだけを前面に出して赤字でいいのかということでは全くなく、それは事業性と公益性というもののバランスをとりながら、財政状況も見ながら、当然考慮していかなければいけないと。それらにつきましても、今回の基本構想の中で整理していくというふうに考えております。

○山田委員

私も、流氷館については非常に重要な観光資源だというふうに思っています。観光をやっている方のほうにいろいろ聞きますと、やはり流氷館はあったほうがよく、むしろなくなったほうがマイナスのダメージが大きいというような話も聞いておりますので、これはぜひ成功しなければならないものではあると。

ただ、今までのように赤字であれば、市民からの不安が出てきますので、せいぜいちょんちょんぐらいでも構わないというような気持ちがあります。かつ、これは広告宣伝という、網走を宣伝するという意味合いがあるので、この件については失敗しないで、計画と、それから事業主体が、今までのようにやってもらうのはいいのですけれども、やってもらう人に、もっと経営の工夫をしながら、網走に滞在する、あるいは交流する人口をふやしていただきたいというふうには思います。

これから構想が出ますので、中身が詳しくないので何も言うことがないのですけれども、やるという意思があるのであれば、観光部ができた意味合いが物すごく強いと思いますので、今後も期待してやりますので、ぜひ中身を、僕ら市民も含めて満足いけるような形にしてほしいというふうに思います。

○佐々木委員長

そのほか。

○平賀委員

お二人の委員からありましたけれども、改めて確認になる部分もあるかもしれませんが、公益性の意味をもうちょっと確認をさせてください。

説明の中では網走観光における全体的な公益性だということが強うたわれていましたけれども、例えば収支が、どうしても均衡が図れなかった場合に、公益性があるということで、そこには財政的な手だてをしていくという意味も含めて、公益性というのを改めて今回位置づけるという理解でいいのでしょうか。

○田口観光課長

公益性の意味は、先ほど田口次長がお話ししておりましたけれども、流氷というアイテムが網走観光に対する意味合いがすごく大きいという、そういう意味での公益性、それから、市民が活用できる施設という公益性、これらを含んだ意味というふうに考えております。

収支につきましては、これからの検討になりますが、あくまでも運営につきましては入館料で賄える方向で今後検討していきたいというふうには考えております。

○平賀委員

その部分のニュアンスは今後だということでも理解させていただきました。

それで、運営方法のことで今、近藤委員からもありましたけれども、従来どおりの考え方というのがありました。今、従来どおりで言うと、直営という話もありましたけれども、実際は指定管理者で、特別会計もあるという形でやられているのだと思います。

運営を考えていったときに、指定管理者で任せているところで特別会計が存在しているというのは、恐らくここだけなのだろうと、網走市の場合は。あとは、指定管理者になっていて特別会計になっているようなところはないのですけれども、その形態もそのまま維持されるのでしょうか。

近藤委員が民間と言った意味がちょっといま一つわかりませんが、通常形で、今説明があったとおり、入館料だけで運営をしていくのであれば、特別会計という形ではなくて、指定管理者の通常のやり方でやるという形に持っていくのが自然なのかなと思うのですけれども、その辺の考え方はどうでしょうか。

○田口観光部次長

運営の方法なのですが、そもそも建物はだれのものかということになりますと、それは市のものということになりますので、その運営に関しては指定管理という方法をとるとというのが基本的な考

え方です。

それで、特別会計のお話につきましては、やはり、公益といいながらも、やはり一定の収支のバランスが見えるような形をとっていかなければいけないという施設になると思いますので、どこからどこを特別会計が賄って、どこからどこまで一般会計かという具体的な課題はあるとは思いますが、その辺は明らかになるような会計運営の仕方をしていかなければいけないというふうに考えております。

○平賀委員

そうすると、会計の区分も特別会計を残した今のやり方をそのまま踏襲していくという形で考えているということでもいいですか。

○田口観光部次長

今のところは基本的にそのように考えております。

○平賀委員

そここのところは、考え方として、現時点ではわかりました。

それから、道立オホーツク公園との一体的整備という話が出てきました。

今の説明を伺うと、建てかえようとしている建物の周辺の整備を道立公園で行うというのが基本なのかなと思いつつも、もしかしたら建物そのものも道立公園の何らかの補助対象になるのではないかというようなニュアンスがあったのですけれども、その辺の認識をちょっと整理しておきたいのですけれども、どこを道立公園の整備として受けられる可能性があるというお考えなのでしょうか。

○田口観光部次長

先ほども副市長の説明にもありましたが、どこがどの部分を、周辺を含めて、周辺の建物ということになると思いますが、その事業主体につきましては、今後、北海道と、今、その可能性があるかどうかという段階ですので、どこがだれの区分になれるかも含めて、今後の詳細については今後検討すると、詰めていくというような考えになっております。

○平賀委員

そうすると、管理面もあわせて協議していくことになると思いますけれども、事業におけるイニシアチブという話もありましたけれども、もちろんそれは、事業が実際に実施された後の運

営のイニシアチブもどちらが持っていくかということがすごく大事になってくると思うのです。

道路の構造から考えて、道路を隔てていますので、道立オホーツク公園の飛び地のような場所になるのか。今はセンターハウス、それからロッジのあるほうのハウスが、季節によって管理の中心になる場所等が変わるような運営の仕方ですけれども、今度、箇所的には3カ所目のようなイメージになるのですけれども、できたときに、どこがでは、そこの部分の運営主体になって、主体的に運営していくのかというのも物すごく難しくなるのかなと。一部だけが、例えば網走市が運営管理ができるような形になるのか、そういった課題の整理も相当詰めていかなければならないだろうと思いますが、その辺については、これから当然検討されていかれるのですよね。

○田口観光部次長

道路で隔てるという物理的な部分につきましては、今の北方民族博物館のところも同じような形態でございますので、さらに、北方民族博物館も、北海道内ではあるのですけれども、所管が教育ということで、いろいろな形態は考えられます。詳細につきましては、今後についての管理も含めて、どちらがやるかということは、今後詰めていかなければいけないというところもあります。

いずれにしても、単体施設だけではなく、面の考え方にどんどん広げていって、周辺の施設の連携というのが非常に魅力的な、エリアになるために、観光客や市民が行きたくなるような施設というのはやはり、単体のもものだけではなくて、周辺との連携というのが非常に必要になってきますので、イニシアチブをどちらがとるかという問題はありますけれども、あのエリアの入り込みをふやすという、その部分での目的は共有しておりますので、それは当然、解決できる課題だというふうに考えております。

○平賀委員

次なのですけれども、市民の観光シンポジウムを10月ごろ予定されているということです。天都山展望台及びオホーツク流氷館の建てかえについての資料が中には載ってくるということなので、メインはこれの説明だとか、これに対する考え方だとかがあるのだと思いますけれども、一方で観

光に対しての意識づけというのも多分あるのだというふうに思います。基本的に、シンポジウムの考え方をまず聞かせていただきたいと思います。

○田口観光部次長

このシンポジウムの目的ですが、きょう御説明したように、展望台とオホーツク流氷館は単体の施設ではなくて、網走観光全体において、この施設がどういう位置づけで、どういう機能を果たしていくのかという観点が非常に必要だと思います。なので、そもそも網走観光というのは今後どういべきであろう、それによって、この施設も含めてでしょうけれども、位置づけがこういう位置づけで、こういうアピールをしていかなければいけないというような部分を市民の皆さんと共有して、意識を持ってもらうための目的を持ったもの。当然、観光関係者についても行政にしても、やはり、目指すべき姿というものを共有していかなければいけないというのが基本だと思いますので、そういう目的を持ったシンポジウムにしたいというふうに考えております。

○平賀委員

内容は理解いたしました。

さらに、3の基本構想のポイントというのは、3番目に天都山眺望の再認識というのが書かれてありますし、今のお話にあったとおり、認識を改めて持っていただくことと共有するということがやっぱりすごく大事になってくると思います。3月の予算等審査特別委員会のときに、そこが足りないのではないかとこのことを指摘させてもらったのですが、そこは理解していただいていたのでこういう形になったのだなということを私も理解はさせていただきます。

このことについて、私は近藤委員と違った観点で、この間、空白があいてしまったことは非常にもったいないなというふうに思っています。急ぐのではなくて、意識を醸成する期間として活用し切れなかった約一年間なのだと私は思っております。そのことについては率直に反省していただかなければならないのでは、震災という大きなものがありましたから、ある程度仕方がない部分はありますけれども、そこはある程度反省をしていかなければいけないのかなということと、そこを考えると、1回のシンポジウムだけでそのものを理解していくのはなかなか難しい。まちづくりふれあい懇談会もありますけれども、さらなる意

識醸成の取り組みを私は求めたいと思いますが、何か考え方はありますか。

○田口観光部次長

ここのスケジュールは当面のスケジュールでございますので、シンポジウムはシンポジウムとしてやってみて、市民の皆さんの反応や、それから観光関係者の方、また行政の意識、その辺での課題も出てくると思います。その後につきましては必要なときに必要な取り組みをしていくべきであろうというふうに考えております。

○平賀委員

状況を見ながらということだと思いますが、せっかくこういうものがやはり建つという機会ですから、観光に対しての意識をどう高めていくのかというところに強い思いをうまく活用していただきたいと思うのです。それがうまくできることで、この建物そのものもさらに有効活用が進むでしょうし、まち全体の活性化にも多分つながるのだと思うのですが、ぜひそういった形で行っていただきたいというふうに思います。

それから、公園にするということで最後に伺うのですが、公園をつくる際には、いろいろな考え方があるとは思いますが、広くいろいろな方々が使える公園をつくるということと、一定のターゲットを絞った公園をつくるというやり方が当然あるのだと思います。それは、道立公園やいろいろなところを見ても、ここは子供をある程度中心に考えているのだな、ここは歩くことをメインに考えているのだなとか、いろいろな形はわかるのだと思いますし、網走市内の公園だって、それはあるのだと思います。そこをきちんと整理しながら道と交渉していかないといけないと思うのですが、現時点ではどのような考え方をお持ちでしょうか。

○田口観光課長

現時点では具体的などころまではまだ検討しておりませんで、今後の策定構想の中で考えていきたいというふうに考えております。

○平賀委員

私は、ここの建物の設置の場所だとかを考えたときに、広いターゲットの設定だと、なかなか難しい公園になってしまうのかなという気がしています。例えば子ども中心、若い層にターゲットをはっきり絞るだとか、そういったターゲットを絞り込む作業というのはすごく大事な場所だろうと

いうふうに思いますので、改めてそこについては十分な時間をかけながら、積極的に検討していただきたいと思います。

以上です。

○佐々木委員長

そのほかございますか。

○栗田委員

前にもちょっと申し上げたのですが、建てかえることによって勝算はあるのかというのは非常に大事なことなのです。行政が主体となって建設の方向に向いているということは事実なのでしょうけれども、通常、収支がきちんとでき上がった上でないと資金繰りもできませんし、その結果、きちんと、建物のコストも含めてキャッシュフローを上げていかななくてはいけないというのが現状なのですが、こういう施設ですから初期投資の部分はちょっと見ないことにしたとしても、単年度の収支は確実にプラスにならないければ、やはりこれからの市民の理解は得られないだろうと。そういうものもまたつくらなくてはいけないという考えをしっかりと持たなくてはいけないという気がします。

皆さんのお話、特に理事者側の説明を聞いてみると、マーケットというものをきちんと把握していないのではないかと。今どういう状況で観光の衰退が始まって、どういう人たちが、人の種類で、そのターゲットになる人たちがどこに来るのかということをしかりとつかんだ上で、マーケティングした上でないと絶対これは成り立たない話なのですが、逆に言うと、建物ありきで新しいものの建てかえ効果をねらって、その段階である程度勝算があるのではないかなという甘い考え方がすごく見えてくるのですけれども、その辺のことにに関して、考え方をちょっと聞かせてほしいなと思います。

○田口観光課長

現在、流氷館におきましては、入館者数の分布状況、団体なのか個人なのか、日本人なのか外国人なのか、どこから来ているのか、それらのことを、詳細をすべて調査するようにしておりますので、その辺のデータも活用した施設のターゲットを今後考えていきたいというふうに考えております。

○栗田委員

ある程度検討はされた上で出しているというこ

となのでしょうかけれども、そのずれがあるということ認識してほしいわけです。一般的な、我々民間レベルの考え方とちょっとずれがあるというふうに私は感じます。

このことについてはここでやめますけれども、ちょっとその辺も含めてきちんとやって、要は収支が、単年度でき上がったときに、1年目から公費を投入するような施設はやっぱり市民に理解は得られない。百歩譲って、建てかえの部分については、これは公的なものですから、市の財産となるわけです。それに対してはある程度の皆さんの御理解をいただけたらと思うのですが、運営していく上で、やはりそれは、ここに単費の税金をどんどん捻出していると。みんな苦しんでいるのです、生活が今。決して網走はまだ景気が上がったたり上昇機運に入っていません。東京周辺は多少上がり調子ということは聞いていますけれども、札幌も若干いい状況にはなっているのですが、それが網走まで回ってくるのに2年、3年と、またかかる。その間しっかりと網走を守っていかなくてはいけない。

私は一般質問で言いましたけれども、企業をどうやって守るのだという意識も含めた中で、やっぱり税金の重みというのがそこに出てくると思うのです。まして消費税も上がることに決定したような今の状況の中で、税金に対する負担割合というのはどんどん上がってくるのです。それも踏まえてしっかりと検討していただきたい。

もう1点、道立のほうとシフトして、連携しながらやるという、早い話が道のほうのいろいろなお金が使えるというメリットを考えてのことだと思えるのですけれども、それはそれとして、悪いことではないと思うのですが、では、網走の湖畔園地、あれだけの観光として、我々の今後の方向性がはっきり見えない状況の中で、この流氷館と園地という、そちらの方向をちょっとは見てほしいと思うのですけれども、その辺がちょっと見えてこないというのはどういうことなのですかね。連携させるという意味で。

○田口観光課長

流氷館の整備につきましては、大曲湖畔園地の景観というものも十分に意識した施設として検討していきたいというふうに考えておりますので、先ほど最初のほうに説明しましたけれども、天都山地区、大曲地区、それから川筋地区、これらの

連携を図った観光振興がこれからの網走の観光に求められていると思いますので、その辺を十分認識した上で検討に入っていきたいというふうに思います。

○栗田委員

わかりました。

先週ちょっと温根湯のほうに泊まってきたのですが、温根湯というのも観光するところ全然ございませんが、ホテルだけです。やっぱり苦戦しています。そういう意味からすると、やはり網走にも観光施設というのは必要だという考えは重々理解した上で、本当に必要でしょうし、だから、つくるのであれば、本当に魅力的なものを、本当にそれを見たいのだと。

できるだけ高いお金を払って入ってもらわなくては困るわけです、そんな安い金額ではペイしませんから。だから、そういう設備をきちんとつくるといことはどういうものかなというふうにしっかりと考えていただきたい。湖畔園地をぜひとも、考えの中に少しはそちらを向いた考え方もないと困る。

もう一つ、これも前にも申し上げましたが、市民が活用できる公益性という部分から言うと、やはり流氷の生態系も含めた、東京農大等と連携させた研究設備的な要素がここに入ってくると、またがらっと変わってくると思うのです。教育という部分の、小学校、中学校、高校含めた中で、この網走市に、これから育っていく人たちの、網走の自然、流氷というものを含んだ中の環境に対する物の考え方、そういう研究設備、商売の上でもいろいろなことが出てくると、事業系でも。その辺は絡むことができないものなのではないでしょうか。

○田口観光部次長

研究施設という部分なのですが、今、基本構想の中で整理している部分としましては、そのターゲットをどの人にどういうことをやっていくというのは当然、その中で整理されていって、大きいのが、やはり教育旅行、修学旅行、それは道内の小学校、道内の中学校、道外の高校ということのターゲットで考えたときに、やはり学習するという、そういう機能がここには求められて、それで網走を選択していただけるというようなことも考えられますので、それを念頭に置きながら、この基本構想の中で整理していきたいというふうに考えております。

○栗田委員

最後にお聞きしたいのですが、公主体というか、時代と逆行したように、今回は網走市は、観光部も創設されて、公社の役員も市のほうから派遣されているという、時代を逆行しているのは事実なのです、これは。今はそういう時代ではないですから。

ただ、それは意味があってやっていらっしゃることなので、ある面で失敗は許されない事業になるだろうと思います。失敗したら本当に、民間であれば首が飛びますから、それぐらいの覚悟を持ってしっかりやっていただきたいということを考えたときに、直接の受益者たる観光関連の人たちの部分、当然、審議会とかいろいろな中では入っているのですが、その辺のコンセンサスが僕は少ないと思います。すごくその辺の接点が弱いような気がします。それがなければ、その人たちの声が一体になって、どうしてもそれで、みんなで作っていくのだという気持ちがそこに合流して入っていかない限り、この事業もやっぱり失敗してしまう事業になってしまいますよね。

その意味は十分わかっていると思いますけれども、その辺が、今の動きを見ているとすごく弱いような気がするのですが、その辺の、旅館の業務の人たちだったり、観光関連の人、お土産屋だったり、その辺ともいろいろな詰めた話というのはどの程度進んでいるのですか。

○井上観光部長

観光関連とのいろいろな話を含めて、東日本大震災の関連で、昨年度の5月に予算計上して補正措置をしたというようなことも含めて、できるだけ観光業界とのいろいろな意思疎通という部分を非常に重視をすべきだと、当然そういう流れの中でやってきたつもりですが、流氷館、あるいは展望台の建てかえ問題も含めて、その辺の関連でいくと十分だったのかなという、まだまだ不十分だろうというふうには思っています。

一方で、ことしの観光協会のアンケートの中では、流氷館は建てかえるべき、あるいは、場所もあそこに建っている位置で建てかえるという意見が強かったという話も聞いておりますし、そういう意味で、そうしたアンケートの総意に基づきながら、協会として早期の建てかえの要望を市に要請していきたいという話も協会の総会の中では出されたという、私も出席をして確認したところで

あります。

現在はまだ正式な要請はございませんが、市としてもそういったことにはかかわらず、この建てかえの問題についての重立った関係する部分との、やはりひざを交えた率直な議論というのをきちんとやっぱり積み上げていくことも一方では必要だと。これは議会の質疑の中でもいろいろ出されています。

そういった部分では、従来、そこら辺が弱かったということの反省も踏まえて、近々そういうことを計画している部分もございますので、ぜひ、今回こういうことで住民懇談会に臨むということも含めて、そここのところは今後ともしっかりやっていくということは当然でありましょうし、そういうことはちょっと、この後の予定に入っているということも含めて、しっかりやっていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○栗田委員

ありがとうございます。

各委員から出ていたスピード感というのも非常に大事だと思います。1年おくれることによって、それだけチャンスを逃がしてしまう。せっかく建てるのであれば、早いうちに作る、すぐやっていくというスピード感がないと、これもやっぱり事業をつけるのに、まず大事な部分です。

先ほど私が言ったように、不況の部分から言うと、やはり公共事業のそういう建物も必要な部分も確かにあります。当然、その後に市営住宅の建てかえも、もしかすると現況の網走の市場・経済がこのままだと、持ちこたえられない企業がかなり出てくる。ぎりぎりのところに来ているのが現状です。

そういうふうに考えると、市営住宅の前倒しの建てかえだとか、いろいろなことを検討していかなくてはいけないのかなという、本当に危機感を持ってやるという時期に来ているような気が僕は個人的にするのです。そういう意味からも、やっぱりスピード感を、しっかり、やるべきときにやっておくということが大事なのではないかと思いますので、意見として申し上げます。

以上です。

○佐々木委員長

そのほかございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

それでは、天都山展望台及びオホーツク流氷館の建てかえについては以上で終わらせていただきます。

次、その他ですが、理事者側からその他、何かお持ちでしょうか。

○田口観光課長

卯原内の能取湖サンゴ草の最近の状況、取り組みについて、ここで一つ報告させていただきたいと思えます。

現在、サンゴ草群落地周辺では、塩質性植物のカヤツリグサが繁茂しておりまして、サンゴ草の育成を阻害している状況にございましたため、東京農大に指示を仰ぎ、卯原内観光協会や卯原内町内会、それから網走市と合わせ、約20名の参加のもと、今年28日、先週の土曜日ですけれども、カヤツリグサ等の種が広がらない程度の、必要最小限の草刈りを実施しましたので報告します。

今後の取り組みについてですけれども、協議会・幹事会を開催し、東京農大よりこれまでの調査結果を報告いただくとともに、来年度に向けた種の採取及び種まきなど、今後の具体的な取り組みについて検討していくこととしておりますので、報告させていただきます。

以上です。

○佐々木委員長

この報告について、そのほか何か。

○山田委員

昨年、僕らも手伝って、いろいろと種を拾ったり何かしたのですけれども、これは来年まくと生えるよというような説明を受けたのですがすけれども、生物ですから、すぐ生えるかどうかかわからない中で、新聞報道によると、ことしは結構厳しいというような話なのです。

東京農大の先生方、専門家なのですかとという失礼な言い方もないのですけれども、実際どうなのでしょうかねと思うのですけれども、その辺ちょっと、考えを。

○田口観光課長

昨年来、東京農大の先生方にはいろいろな調査、pHの関係ですとか地下水位の関係とか、継続的に調査していただいております。その結果、pH値の低いところには、これは試験的にすけれども、石灰をまいたりして播種したりとか、いろいろな実験をやってみて、一部それが成果が

あったりしている部分もありますので、サンゴ草の回復につきましては、すぐにはもとのとおりにはならないかもしれませんが、少しずつでも前進していくような取り組みを今後継続していかなければならないというふうに考えております。

○山田委員

実は、僕らも韓国の栽培地に行ったのです。そこは本当に自然のものよりも3倍ぐらい大きなものをつくっているという話なのですけれども、地元の大学ではあるのですけれども、経験の余りないところから、韓国とは言いませんけれども、再生するための機関ですか、もうちょっと当たってもいいような気がするのです。

もし来年もまだ同じようだったら、かなりダメージを受けると。卯原内の観光についてもダメージを受けるし、網走のイメージも、こうしたからサンゴ草が消えるということもあり得るので、もう少し再生のための強化ということを検討していただければなというふうに思っております。

○井上観光部長

私どもも、一日も早いサンゴ草の再生ということでは考えておりますけれども、昨年から東京農大のほうでプロジェクトチームでかかわっていただいて、データどりとしては、ことし春からが実際のスタートだと。そういう意味ではまだ中間的な調査の取りまとめぐらいしかできませんけれども、しかし、一昨年、地元の観光協会で大がかりな、人工的なものを行ったものが、それをまた大がかりに一遍に回復をするというイメージを持たれますと、やっぱりそれは、現実的には、あの地域における自然環境、生態系のバランスを必ずしも配慮したということにはむしろならないという意味では、じっくりやはり、調査データによるやっぱり分析なり今後の方向性で間違いのない取り組みを毎年積み上げていくというのが一番いいのだらうというふうに私も考えています。

いろいろなところでいろいろなことをやっているということは私も承知はしておりますけれども、今大事なことは、そういうプロジェクトチームの調査なり研究をきちんとやっぱり積み上げて、そのことを将来的にもやっぱり財産にしていくと、そして二度と過ちを犯さないという、そういうやっぱりかたい決意で、今、町内会も含めて

一生懸命かかわっていただいています。

なかなか、種をまいたらすぐ生えるというふうに思いがちですけれども、やはりあれだけのしゅんせつ土を入れて、機械でとるという作業をしましたけれども、とり切れるものではないですし、現実的に、まだ正式な報告を受けていませんけれども、東京農大では5月に、雨がほとんど降っていないということが、今、あそこの地域の乾燥化を誘発し、pHを下げているという要因ではないかという見方もしているようです。

そういう意味では、堤防を撤去してということはありませんけれども、どれぐらい今、それによって湖水の水が入ってきているのかという、そういう総合的な調査なり分析がやっぱり必要ではないかというふうに思っています。

もう一つ言えば、去年、種を採取したのが10月下旬なのです。これは、ほとんど種が満足な状態で採取できなかったというのが、私個人的にはそう思っています、そういう意味では種の絶対量も、確保がなかなかできなかったということでは、いろいろな課題があのでエリアの中で集積をしてしまったということで、なかなか目に見えた再生として見えてこないというのはありますけれども、先ほど課長が申し上げましたとおり、農大としては、部分的な、試験圃でいろいろなことをしていますので、かといって、これがいいからという、あそこにpHを上げるための何かを投入することをもし大がかりにしようとするれば、それはそれでちょっと問題かなというふうに思いますので、この辺はやっぱりじっくりデータどりをしながら、地域の人たちと一緒に必要な取り組みを積み上げていくということだろうと思います。

そういう意味で、ある程度見えてきた段階では、今後またいろいろな展開、いろいろなことをやっていくということをしようかと思っておりますけれども、今はまずそういうことが大事かと思いません。

○山田委員

わかりました。

最後なのですけれども、再生することがすごく悲願であるし、観光としては、観光資源の早期回復というのが望みなのです。今言ったように生態系をじっくり見て、再生させるという部分を大事に、でも住民としては、早く網走の観光シンボルでありますここを回復していただけるように、何

とか努力していただきたいというふうに思っています。

以上でございます。

○平賀委員

せいては事をし損じるのだと、あそこの場所を見るとやっぱり思います。焦ってもいけないのだろうと。早くやってほしいという気持ちはみんな持つのだろうけれども、なかなかそうはいかないのだろうなというぐあいだと思います。

伺いたいのは、今、種の話もありましたけれども、種の採取時期もちょっと変えたほうがいいのかということなのだろうと思いますけれども、これはそういったことをまた対策としてやられるということなのですよ。

○井上観光部長

これは既に地域の町内会も含めて、今、話をしています。やはり、地域でも毎年、種の採取をしていましたので、そういうことからすると非常に遅かったということは地域の中で話も出ていましたとおり、ことしについては町内会としてもしっかり人出しをして、しっかり種の量を確保すると、それに全力を挙げるというふうに聞いておりますので、ことしはそういったことで、そうした種子の収集とあわせて、播種の仕方やいろいろなことも含めて、去年のやったことの結果はどうだったということも分析しながら、来年につなげるようにしっかりやっていきたいと思えます。

○平賀委員

実際、現地に行ってみさせていただくと、比較的手前のほうに塩質性の植物が大分入り込んでいる。それで、対策として草刈りをやられたのだと思います。奥に行けば行くほど何も生えていない場所が多い、それがpHの低いところだということふうに思いますので、そこの土をどうするのかとか、何らかの対策が、あれだけの範囲が何も生えていない部分もありますので、多分考えなければならぬのだろうと思います。

一方で、駐車場から左側を見ると、へドロ状になっているというか腐っているような形で、黒くなっている部分、去年の黒色化とはまたちょっと意味が違いますけれどもなっている部分が多くて、そこではそれなりの理由があるのだろうなというのが周りを見ると多分おわかりになるのかなと思います。そこは多分、対策が必要な部分だろうというふうに思うのですけれども、区域で何と

なくブロック的に状況が違うというのが見た感じわかるのですけれども、その辺の対策は、市としては何か考えていますか。

○井上観光部長

現状を見ると、乾燥したところ、あるいは水たまり、へドロ化したところといろいろあって、これは、一つはそういうふうな表面でどうかという見方と、もう一つ大事なことは、地下の水位がどこまで上がってきているかということなのです。

だから、まだ正式な報告は受けていませんけれども、先ほど言いましたとおり、5月が非常に干ばつ化でpH値が低くなったということとあわせて、地下水位がマイナス70センチとか、そういったところがまだあるということなのです。そうだとすると、これは地下水位がそれだけマイナスだということは、全然、サンゴ草の生育にとっては全くよくないということですから、これはそういった部分がどの辺まで広がっているかということ、これは農大の地下水位のデータで恐らく出てきますから、そういう意味ではもう少し必要なことがあるのかもしれない。そこら辺は順次データ分析に基づきながら、協議会の中でしっかり話し合った上で取り組みについて決めていくということになるかと思えます。

○平賀委員

富栄養化しているのだろうと思われる部分も含めて、その状況を待ってから対策をするということですか。

○井上観光部長

そういうことになります。

○平賀委員

そういう形で考えられているということはわかりました。

あと、去年は、今なぜこんなふうになっているかという看板を立てて周知をしたということになっていましたけれども、まだそれは立っていないのかなというふうに思いますので、去年のものがそのまま使えるのだったら、それはいち早くやらなければいけないのだろうなというふうに思います。

それから、さんご草祭りをどうするかということも当然あって、地域で決めることですからあれですけれども、ただ、私が個人的に思うのは、せめてサンゴ草を取り戻そうとか、サンゴ草を再生させようとかというサブタイトルでもない、

なかなか、成長してやってもうまくいかないような気がするのです、さんご草祭りというただ今までどおりのタイトルだと。やってしまったことはもうどうしようもないことなので、そこからそこを取り戻そうという運動につなげていくことが多分地域振興になるのだと思うので、そのような意思を持ったお祭りにしていこうというようなことを担当課からもぜひ投げかけてほしいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○田口観光課長

平賀委員のおっしゃるとおりだと思いますので、そのようなことを地域にもアプローチしていきたいというふうに思います。

○平賀委員

場合によっては市もいろいろかかわっていかれると思うのですが、卯原内の地域だけではなく、それ以外の網走市民の方々のいろいろな参加も、去年もいろいろお手伝いしていただいたこともありましたけれども、それも促しながら、ぜひこれを機会に、環境だとか観光についてもまた、これも一つ考えるきっかけになるのだと思うので、そういった生かし方をぜひしていただきたいと思います。

以上です。

○佐々木委員長

そのほかございますか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

では、サンゴ草群生地状況については以上で終わらせていただきます。

そのほか、理事者側からは。

(「ございません」の声あり)

○佐々木委員長

ございませんか。

委員の側から何かございますか。

○近藤委員

ちょっと今までの議論とは全然関係のない話なのですが、9月から台湾の復興航空が道内の4空港に定期便を飛ばすということで、千歳と旭川、函館、釧路の4空港なのですが、この定期便の就航先から女満別空港が除外された理由について、市としてはどういうふうに考えていらっしゃるのかという見解をお伺いしたいのですが。

○田口観光課長

今回の復興航空の定期便化というのは、チャーター機が飛んでいたものが定期便化ということで、女満別空港については、もともと定期的なチャーター便が飛んでいなかったということが一つあると思いますし、あと、C I Qが整備されていないということも一つあると思います。

さらには、もう一つは、チャーター機を飛ばす以上、台湾復興航空としては、送るだけではなくて受け入れる人も欲しいと思うのですが、その辺のバックグラウンドといいますか、人口的な部分というか、そういうこともあったのではないかなというふうに思います。

いずれにしても、私どものPRが不足していた部分もあったのではないかなということも考えられますので、今後、チャーター便の誘致については一層積極的に進めていきたいというふうに考えております。

○近藤委員

今、田口課長からいろいろと、多分これが理由だろうというものは幾つか挙げられたのですが、釧路空港が国際定期便として復興航空をかなり積極的に誘致していった中で、課題として挙げられながらそれをクリアして、最終的に定期便の誘致につながった理由の一つに、グランドハンドリングとあって、地上業務をやる会社が、要は空き時間がないとチャーター便が受け入れられないという課題があって、釧路空港では、グランドハンドリングをやる会社が空き時間をなるべく多くつくることによってチャーター便を柔軟に飛ばせるような受け入れ体制の整備をしたという経過もあるというふうに私は聞いているのですが、女満別空港もグランドハンドリングの面で余裕がないと、幾らインセンティブをつけても、結局、航空会社を思ったとおりに飛ばせないという状況がありますので、そのあたりはちょっと、これからのチャーター便誘致の政策として留意いただきたいというふうに思います。

要望です。

○佐々木委員長

そのほか、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐々木委員長

それでは、本日の議件であります天都山展望台及びオホーツク流氷館の建てかえ、それから、そのほかについてはサンゴ草の生育状況の説明とい

うことで、以上で委員会を終了いたしたいと思
います。

午前 11 時 00 分 閉会